

エフ・イーが静岡県の製造業社とBCP協定締結 災害時に事業継続協力旭川を“ものづくりクラウド”に



▲調印式で握手するエフ・イーの佐々木通彦社長（写真右）と西光エンジニアリングの岡村邦康社長。

旭川市の農業機械メーカー、エフ・イー（佐々木通彦社長）は12月20日、静岡県藤枝市の特殊乾燥機等開発メーカーの西光エンジニアリング（岡村邦康社長）と、BCP（事業継続計画）協定を締結した。

BCPとは地震などの大規模災害など緊急事態時に事業の早期復旧・継続へ向けた備えのこと。東日本大震災で中小企業の多くが人材や設備を失い廃業に追い込まれたことからBCPを導入する企業が増えている。

今回の協定は両社のいずれかが被災し生産拠点が確保できなくなった場合に、一方の企業が生産設備や技術を提供し事業継続に協力するもの。平時から災害に備えて機械設計図や顧客データを共有し人材交流も進め、相互に販

売でも協力する。BCP協定は多くが同業種組合等で結ばれ、製造業同士は全国でも稀れで、旭川の製造業では初。両社長は2年前に札幌で開催された「ものづくりテクノフェア」で出会い、昨年8月に東海地震への備えから西光エンジニアリングから協定を申し入れた。

エフ・イー社（工業団地3の2）での調印式で岡村社長は「日頃から互いの機械を販売しながら信頼関係を構築していきたい」と挨拶。佐々木社長は「静岡企業との結びつきが地域に活性化につながれば。旭川機械金属工業振興会の会長である私自身が窓口となつて、旭川の仲間と共に協定企業の機械を製造していく。旭川は災害が少なく技術もあるので、今後“ものづくりのクラウド”になれるのでは」と話している。